

みんなの力で、  
裁判・労働委員会  
を勝利しよう！

◎署名にご協力ください  
・大阪地裁(個人・団体)  
・中央労働委員会(団体)

◎支援共闘会議へ加入を  
呼びかけます！  
個人 1000円  
団体 3000円

私たち守口学童指導員の原告団10人は、「一日でも早く子どもたちのところに  
戻りたい」が一番の願いです。

そのためにも、不当な雇止め撤回と  
学童保育の職場に戻り、たたかう労働組  
合の仲間とともに、6月10日に「守口学  
童指導員の不当解雇撤回と職場復帰をめ  
ざす支援共闘会議」を結成しました。

大阪地裁や労働委員会あてに署名を取  
り組みます。職場や地域から積極的な呼び  
かけで署名推進のご協力をお願いします。

支援共闘会議は、原告団10人を先頭に  
たたかいます。ぜひ「支援共闘会議」に  
加入いただき積極的な参加を呼びかけます。



連絡先 **大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）**  
〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-13-15 大阪グリーン会館 4階  
TEL 06-6354-7201 mail mado@osaka-jichiroren.jp

守口学童

共立メンテによる不当解雇を許さず  
組合員10名の解雇撤回と職場復  
帰を勝ち取るまで頑張ります！



50 数年前から続く公設公営の「もりぐち児童クラブ」(学童保育)  
の運営について、守口市が 2019 年 4 月から (株) 共立メンテナンス  
に業務委託。しかし、一方的な運営方針の変更や、改善案を示した指  
導員労組との団体交渉を拒否。大阪府労働委員会が不当労働行為と断  
罪しましたが、共立メンテは中央労働委員会に再審査を申立てました。

新型コロナ対応で子どもたちの命と安全を守る学童保育の重要な役  
割が高まるもとの、今年 3 月末に指導員 13 人を解雇しました。

こうした暴挙に対し、指導員労組の組合員 10 人が原告となり、5 月  
15 日に大阪地裁に提訴し、支援共闘会議として断固たたかいます。

※共立メンテナンスは、ホテル「ドーミーイン」や旅館「癒しの湯宿」等を経営。そ  
の他、公共サービス受託事業など全国展開し、他の自治体でもトラブル事例が多発。

守口学童指導員の不当解雇撤回と職場復帰をめざす支援共闘会議  
大阪自治労連／大阪労連／守口学童指導員労組

# 共立メンテナンスの不当な雇止め撤回、守口市当局の責任を求めます 保護者と指導員の願いにこたえ、よりよい守口学童をつくりたい！

## 私たちは一日でも早く子どもたちの学童に戻りたい

私たちは、守口市が学童保育を直営してきた時から長年、指導員として働いてきました。子どもたちが安心して通いたくなる学童保育をつくろうと、保護者の皆さんといっしょに力あわせて、現在の守口学童保育をつくりあげてきました。昨年4月の民間委託後も、子どもたちや保護者が安心して楽しく学童保育に通えるよう、真面目に仕事をしてきました。ところがコロナ対策に追われる3月23日、指導員13人が突然の雇止め宣告を受け、本当に頭が真っ白になりました。

私たち労組は、市直営の時からより良い学童保育をめざし市当局との交渉を重ね、現在の保育内容をつくりあげてきました。

憲法が定める労働者の団結権を認めない会社に、子どもたちの権利を守る保育ができるとは思えません。労働組合との団体交渉の実施、雇止め撤回と早期の職場復帰を求めて頑張ります。

いまは、「一日でも早く子どもたちに会いたい」「子どもたちのいる学童保育に戻りたい」と願うばかりです。

原告団一同

## 守口市の学童保育と指導員雇い止めの経過

- 守口市の学童保育は、1966年に「留守家庭児童会事業」として発足され、公設公営で50年以上の歴史があります。
- 指導員の労働組合を結成し、専門性や経験を積み重ね、保護者と一緒に力を合わせ、保育内容の質の向上を進めてきました。
- 2016年、守口市の西端市長が学童保育「民間委託」方針を打ち出し、市民の反対を無視して民間委託化を決定しました。
- 2018年、「50年間の保育を継承」「希望する指導員の全員雇用」との提案が評価されて、共立メンテナンスに業務委託契約。
- 2019年4月、共立メンテナンスが当初から団体交渉に応じず
- 2020年3月、労組役員中心に13人を雇い止め強行。
- 2020年5月15日、指導員10人「保育水準と保育内容の維持を求める労働組合を排除し、その弱体化を狙う不当労働行為」で大阪地裁に提訴しました。

本年4月、委託会社は、理不尽なことにベテランの先生方を契約解除し、解雇しました。保護者会で署名活動を行い、名簿を西端市長に提出しました。

子どもたちからも「私たちの大好きな先生を奪わないで」との手紙も多く寄せられました。誰のための学童保育かを真剣に考えてほしいです。

沖本 聖子さん

保護者  
から  
エール

いつも子ども達のために何か楽しい事をしようと考えてくれていた指導員だったけど、会社の都合で出来ない事が多い1年でした。3月末に雇止めの通知が出る頃、絶対また戻ってきて「学童にずっと居てほしいな」と思いました。まだ裁判が続いて大変だと思いますが、頑張してほしいです！

石井 友香さん

仕事をしながら学童の行事は大変な事もあったけど、行事当日は指導員・子ども・保護者みんなが笑顔で笑い声に包まれる1日で疲れも吹っ飛びました。時には厳しくも決して上からではなく同じ目線で子どもや保護者に寄り添ってくれました。育児や人生の先輩として相談に乗ってもらったり、学校の先生とは違う特別な存在が指導員でした。

番 真由美さん